

解説

鳥尾小弥太は幕末の志士にして明治時代の軍人、政治家。弘化四年（一八四七）、長州萩藩士の長男として生まれる。幼名一之助、その後百太郎。号は得庵、ほかに不識道人、御垣。諱は敬孝。安政五年（一八五八）江戸に行き江川太郎左衛門に学ぶ。文久三年（一八六三）奇兵隊に入る。明治三年（一八七〇）兵部省に出仕、翌年陸軍少将に補せられる。明治十四年、北海道開拓使官有物払い下げ事件に対して意見を上奏し、曾我祐準・谷干城・三浦梧楼らとともに四將軍と称された。明治二十一年、日本国教大道社を組織し、また保守中正派を唱えて『保守新論』を発行し始めた。同年枢密院顧問官、第一回帝国議会から貴族院議員、日清戦争後再び枢密院顧問官となった。明治三十八年没。